地域環境保全功労者功績内容等

県　別	氏名	功　　績
青森県	弘前市立朝陽小学校父母と教師の会 （ひろさきしりつちょうようしょうがっこう ふぼときょうしのかい） 代表者　会長　西舘　弘道	１．昭和４９年から平成１７年まで３２年間にわたり、資源回収に取り組み、ごみの減量化及び資源化に協力した。 ２．年間回収量が多く、常に協力団体中3位に入る実績を誇る。 ３．再生資源回収運動で得た収益金は、運動部のユニフォーム等、学校の備品の購入に当てられるなど、有効的に活用されている。 　その他に、町会の回覧板による周知により、学校関係者ではない町会住民の協力も得られている。それにより児童父母、町会住民が一丸となって取り組み､地域のコミュニティ作りとして役立てている。 　また、各家庭を訪問して資源物の回収を行っているため１回の回収量が多い。また、資源ごみを引き取り業者に引き渡す際、トラックへの積み込み等に児童が自ら積極的に協力するなど生きた環境教育の現場となっている。 ○昭和５６年９月：弘前市環境保全事業功労者表彰受賞
岩手県	千田　典文 （ちだ　のりふみ） 一関市環境審議会委員	・昭和57年から長年にわたり、地域の住民団体や学校、市や県の主催する環境セミナーや水生生物による水質調査等においてボランティア講師を務め、水質保全や自然保護の普及啓発に取組み、地域の環境教育活動の基盤構築に貢献した。 ・平成11年度から県の環境アドバイザー、平成１３年度から地球温暖化防止活動推進員として、県内各地で積極的に講演を行うなど、地域の環境保全教育活動の推進に努めている。 ・現在は一関地球温暖化対策地域協議会や一関環境審議会委員を務めるなど、地域における環境行政の推進に寄与している。 ○平成９年度：環境保全功労者知事感謝状
福島県	会津若松市立永和小学校 （あいづわかまつしりつえいわしょうがっこう） 代表者 校長　園部　俊和	平成12年度からリサイクル活動の一環としてアルミ缶回収を行い、全校生徒が一体となって環境保全に努めている。回収されたアルミ缶は、リサイクル委員が中心となって、毎週、１つ１つ選別作業を実施している。回収したアルミ缶は、すべて車イスに交換し、福祉施設等に寄贈し、交流の輪を広げている。また、アルミ缶回収作業については、児童だけでなく、各家庭及び地区住民に協力を求め地域が一体となって環境保全活動を推進している。 　さらに、平成17年度からは、会津若松市で実施している 「学校版環境ISO認定登録校」となり、環境にやさしい学校づくりを推進している。 ・活動年数　　7年 ・年間活動日数　約50日 ・活動範囲　　永和地区全体 ・回収量　　約3,500kg ○平成17年度　会津若松市環境大賞 ○平成18年度　うつくしま、ふくしま。環境顕彰

県　別	氏名	功　　績
福島県	中村　玄正 （なかむら　みちまさ） 日本大学　教授　工学部	中村玄正氏は、土木環境システムを専門とし、「廃水の窒素化合物の消長と微生物の動態」、「湖沼の富栄養化について 」、「水循環と水質汚濁」など水質浄化及び公共用水域の水質保全のための研究に積極的に取組み、これまで、「下水道協会誌優秀論文（有効賞）（平成１３年６月）」、「日本水環境学会設立３０周年記念功労賞（平成１４年６月）」を受賞している。 また、これらの研究成果及び専門知識を活かし、国、県及び市の環境保全に係る審議会等委員などを多数務めている。 特に、福島県においては、平成８年９月から福島県環境審議会委員（平成１２年９月からは会長）を務め、その間、全国初となる閉鎖性水域の水環境悪化の未然防止条例である「福島県猪苗代湖及び裏磐梯湖沼群の水環境の保全に関する条例」や、経済社会活動における資源循環だけでなく、自然循環の保全や心の豊かさを重視した賢い生活様式・行動様式への転換を柱とした福島県独自の「福島県循環型社会形成に関する条例」制定、新たな政策手法としての「産業廃棄物税」導入のための審議について会長として大きな役割を果たすなど、環境行政に対する功績は極めて大きい。 また、自治体を始め民間の環境保全活動団体が主催する講演会等の講師を務め、「ふるさとの自然や環境を自分たちの手で守っていくことの大切さ」について広く普及啓発するとともに、自らも水環境保全活動や清掃活動を行うなど実践を通じた普及啓発にも取組み、これらの功績が認められ平成１５年度に「ＮＨＫふるさと賞」を受賞している。
茨城県	西成田　輝 （にしなりた　あきら） 茨城県環境アドバイザー	氏は，平成７年から茨城県環境アドバイザーとして本県の環境学習の推進に貢献している。省エネルギーや地球温暖化，環境教育を専門とし，東京電力在職時から現在まで茨城県内ほか全国で延べ65回，6千人以上に講演している。 また，平成９年１０月から平成１０年３月まで，本県の太陽光発電や風力発電等の導入を推進するための茨城県新エネルギー導入ビジョン策定専門委員として尽力した。 さらに，平成１６年には経済産業省関東経済産業局の省エネオピニオンリーダーを務めた。 ○平成14年度：茨城県環境保全功労者表彰

県　別	氏名	功　　績
栃木県	高橋　巌 （たかはし　いわお） (社)栃木県浄化槽協会副会長	1　浄化槽協会役員として多年にわたり会員の指導・育成、業界の健全な発展に献身的に努力を傾注してきた。 特に単独・合併処理浄化槽の併用時期、先進的に合併処理の必要性を説き、浄化槽普及のための環境整備に努めた。 2　既設単独浄化槽の合併浄化槽への転換促進の課題に対して、行政への働き掛け、住民への積極的な情報の提供を行うなど、浄化槽の身近な水環境保全に果す役割についての意識向上のための啓発に尽力している。 3　本県における浄化槽法定検査受検率の低迷から脱却するために・「栃木方式11条検査」の導入に主導的に取り組み、近年においては受検率の飛躍的な向上を果たしている。 4　浄化槽の普及、適正維持管理促進の中心的役割を果たしており、長年会長を補佐して協会の発展に貢献するとともに、本県の健全な水環境保全に果たした功績は多大である。 ○平成11年10月：厚生省生活衛生局長表彰 ○平成13年９月：栃木県公衆衛生大会知事表彰
栃木県	長野　榮夫 （ながの　ひでお） 社団法人栃木県産業廃棄物協会 副会長	1　昭和62年３月、（社）栃木県産業廃棄物協会の設立に際しては、発起人の中心として同業者等に積極的に働きかけを行うなど尽力し、設立後は、理事に就任し中心的存在として会長、副会長、事務局を補佐し、協会の自立成長のため各種事業の企画・立案に積極的に取り組むなど、協会の運営に献身的に協力し、産業廃棄物関係者の意識高揚等に努めてきた。 2　平成６年４月からは、副会長に就任し、会長の補佐役として役員等をとりまとめ協会運営に尽力するとともに、処理業者としての豊富な経験や知識を生かして会の資質向上に努めてきた。また、(社)全国産業廃棄物連合会の処分技術検討分科会委員として環境保全の推進に努め、産業廃棄物処理業界の健全な発展に指導的役割を果たしている。 3　平成10年８月の栃木県大雨災害復興事業、平成11年２月の都賀町産業廃棄物不法投棄現状回復事業や、平17・18年に実施された佐野市赤見地区廃タイヤ撤去事業など、様々な事業に積極的に参加し、その豊富な知識や経験を活かして事業の円滑な遂行に貢献するなど、県民の生活環境保全及び公衆衛生の向上を図った。 ○平成13年９月：栃木県公衆衛生大会知事表彰

県　別	氏名	功　　績
群馬県	利根・沼田自然を愛する会 （　とね・ぬまたしぜんをあいするかい　） 代表者　　古見　満雄	・会の設立から５０年以上に亘り、利根沼田地域（主に玉原高原）の動植物を研究・保護し啓発活動を行う。 ・具体的には、月例自然観察会（５月～１１月第２日曜日午前１０時から）、子ども自然観察教室を開催している。 ・玉原高原のブナ林保全のために、ブナの苗木移植に取り組んでいる。 ・ガイドブックやポケットガイドを作成し、来訪者に対する自然環境教材として活用している。 ○平成13年10月：群馬県環境賞受賞
群馬県	鈴木　克彬 （すずき　かつあき） 群馬県環境アドバイザー連絡 協議会代表	・県と協力して環境ボランティアの連絡組織である群馬県環境アドバイザー連絡協議会を設立し、県内各地で一般県民を対象とした環境学習事業の推進や環境アドバイザーの増加など、県の環境ボランティア活動の推進に大きな功績をあげた ・群馬県環境アドバイザー代表書記として、群馬県環境アドバイザー連絡協議会の運営並びに会報「グリーンニュース」の発行に尽力するとともに、平成１５年６月からは代表として、精力的に取り組んでいる。 ・地域環境学習推進事業では、富士見村周辺地域の環境アドバイザーの先頭に立ち、行政と連携して、ごみの減量や河川の水質悪化等の問題に積極的に取り組んでいる。 ・平成12年３月に、県内の消費者団体とともに「グリーンコンシューマー群馬ネット」を設立し、消費者団体と連携した環境活動を推進している。グリーンコンシューマー群馬ネットは、マイ・バッグ・キャンペーンの店頭啓発等、環境保全活動の推進に大きく貢献している。 ・マイ・バッグ・キャンペーンでは、積極的に店頭啓発等ボランティアの先頭に立ち、キャンペーンの成功に大きく貢献している。 ・マイ・バッグ・キャンペーンの功績が認められ、平成14年10月、アドバイザー連絡協議会が経済財政政策担当大臣表彰を受賞。 ・「地球温暖化防止活動推進センター」として県から指定を受けている「ＮＰＯ法人地球温暖化防止ぐんま県民会議」の設立に尽力し、副理事長として組織の活動を積極的に推進している。 ○平成15年度群馬県環境賞（知事表彰）受賞

県　別	氏名	功　　績
千葉県	田宮　克哉 （　たみや　かつや　）	平成元年に手賀沼の清掃、歴史・文化・自然観察会など多岐にわたる研究や活動を行うことを目的に「ふれあい手賀沼の会」を設立し、現在も会長として、手賀沼周辺の自然観察会を企画し案内指導を行っている。 市民、ＮＰＯ団体と地元行政が協働で開催するイベントにも実行委員として積極的に参加しており、「手賀沼流域フォーラム」、「ＥＮＪＯＹ手賀沼」では手賀沼の浄化のための啓発活動、また「手賀沼ふれあい清掃」では手賀沼周辺の清掃活動を続け市民の環境保全活動の手本となっている。 平成９年から平成１５年まで我孫子市の環境ボランティ平成９年から平成１５年まで我孫子市の環境ボランティアリーダーである環境レンジャーとして、環境に関する指導者養成講座の講師となるなど、我孫子市と協力して環境ボランティアとなる人材の育成に努めてきた。 平成７年から１５年まで「あびこガイドクラブ」の会長として、千葉県手賀沼親水広場において船上ガイドボランティア活動に従事し、多くの県民に手賀沼の浄化などについての啓発活動を行うなど県の環境保全行政の推進にも協力してきた。 小学校の総合学習への参画し、子どもたちとの交流を深めながら地域の環境学習指導者としても意欲的に活動を続けている。 ○「ふれあい手賀沼の会」が我孫子市長から環境功労感謝状受賞（平成１７年度）
千葉県	特定非営利活動法人　せっけんの街 （とくていひえいりかつどうほうじん　せっけんのまち） 代表者　理事長　比戸　壽代	せっけんの街は、昭和５９年に手賀沼せっけん共有者の会として設立して以来、長年にわたり廃食油を原料としたリサイクルせっけんの製造・販売を行い、リサイクルせっけんの普及を通して環境負荷の少ない暮らしと水質浄化に関する市民の意識向上のための啓発活動を行っている。 平成４年からは自治体から廃食油の回収を始め、行政と連携したリサイクル活動にも積極的に取り組んでいる。 また、平成１６年２月からは、廃食油を原料としたバイオディーゼル燃料を製造し、生協の配送車、トラック、農耕機での使用も始まっている。 その他にも、小中学校や公民館などでの環境学習出前講座の実施や地域の環境に関するイベントへの参加を通して、環境を守ることの大切さを伝えるとともにリサイクルを実践するための提案など、地域における資源循環型社会実現のための普及・啓発にも取り組んでおり、地域環境保全に多大な貢献をしている。 ○平成10年６月：千葉県環境賞受賞

県　別	氏名	功　績
富山県	小島　覚 （こじま　さとる） 富山県環境審議会委員	平成６年３月から、富山県環境審議会委員に就任し、富山県環境基本計画の策定及び改定、富山県地球環境保全行動計画（地球にやさしい富山プラン）、富山県廃棄物処理計画（とやま廃棄物プラン）、富山県地球温暖化対策推進計画（とやま温暖化ストップ計画）、富山県環境教育推進方針等の策定に携わるなど、本県の環境行政の推進に多大な貢献をしている。 また、とやま２１世紀水ビジョン推進会議の委員として、富山県における水に関わる各種施策を総合的に推進する指針である「とやま２１世紀水ビジョン」の策定に携わったほか平成１８年度には、同推進会議の会長として、地球的規模での地球温暖化、酸性雨等の水環境問題の進行や、環境意識の高まりなどをうけ、同ビジョンの改定に尽力するなど、本県の水環境の保全に多大な貢献をしている。
長野県	三峰川みらい会議 （みぶがわみらいかいぎ） 代表　織井　秀夫	河川環境保全のため、アレチウリ駆除をはじめとする各種事業を多角的に展開し、自ら保全活動を実践するとともに、流域住民及び行政との協働により地域全体への環境保全意識の啓発に大きく貢献。 特に、アレチウリ駆除活動については、県内における先進事例として、また、住民と行政との協働モデルとして、活動当初から大変注目されており、活動推進のため、駆除指導者育成講座を開催するとともに駆除マニュアルを作成配布する等した結果、現在では、毎回数百人規模での駆除活動に発展。また、三峰川流域住民のみならず他地域における活動推進にも多大に尽力し、これら活動が県内各地における当該駆除活動の牽引役となり、本県における全県一斉統一行動の中核を形成。 また、この他にも、流域住民と行政との協働を図るため、市町村、県、国との行政懇談会、河川の研究等を行う個人団体の発表・交流の場としての三峰川フォーラム、流域住民多数が参加しての三峰川まつりの開催等、継続的な事業の実施により河川に対する人々の関心を高め、環境保全及び美化活動を積極的に推進してきたことは、評価に大きく値する。 なお、これまでの主な受賞歴は以下のとおり。 ・平成14年７月：全国「川の日」ワークショップ　努力賞 ・平成14年９月：社団法人長野県環境保全協会 ・平成14年信州エコ大賞 ・平成17年２月：伊那ロータリークラブ 第27回伊那ロータリー顕賞

県　別	氏名	功　　績
愛知県	杉浦　孜 （すぎうら　つとむ） 愛知教育大学名誉教授	昭和57年12月から愛知県公害対策審議会専門委員として平成6年8月から愛知県環境審議会専門委員として、また平成8年8月から平成18年7月までは愛知県環境審議会委員として、専門の分析化学の知見を活かし、審議会の適正な運営に尽力され、環境保全に関する基本的事項の調査、審議を通じて、環境保全行政の推進に尽力された。 ○平成18年度愛知県知事表彰（感謝状）
愛知県	酒井　廣三 （さかい　ひろぞう） 愛知県地域環境保全委員 岡崎市環境保全委員	創設時の昭和46年7月より愛知県の公害防止委員となり、現在も後を引き継いでいる愛知県地域環境保全委員を引き続き勤め、また、岡崎市でも創設時の昭和49年11月より公害防止委員となり、現在も後を引き継いでいる岡崎市環境保全委員として30年以上にわたり、県・市の環境行政の推進に協力をいただいています。 薬剤師としての専門知識・経験を活かし、特に岡崎市では河川の水質試験や国道１号線の騒音・振動・大気汚染の測定など行政職員と一緒に業務を行い、協力をしていただいた時期もありました。平成13年4月からは、岡崎市公害防止委員連絡会議の会長となり、現在も岡崎市環境保全委員連絡会議の会長であります。 現在の活動の主なものは、地域の公害問題や自然環境、不法投棄など多岐にわたる監視パトロールであり、県・市に報告をしていただいています。また、酸性雨の監視（雨水のｐH測定）も行っていただいています。 ○平成５年６月：愛知県環境保全推進功労者表彰受賞
滋賀県	坊野　善宏 （ぼうの　よしひろ） 弁護士	昭和６０年１１月から平成１８年１０月までの２１年間にわたり滋賀県公害審査会の委員として、公害紛争の迅速、適切な解決に努めてこられ、滋賀県の環境行政に尽力されてきた。また、昭和６３年から平成１８年の１８年間は会長として審査会の運営にも尽力された。 さらに、公害紛争における調停にあたっては、自らも調停委員長として話し合いを進められ、携われた６件のうち５件を調停成立に導かれた。また１件については、当事者の話し合いで合意に達したことから取りさげられたもので、氏が担当された事件は、全て当事者間の合意が得られており、氏の優れたリードが伺われる。 氏は、高い見識と豊富な経験を持って、迅速かつ適正に公害紛争処理の解決に努められ、滋賀県の環境行政への功績はまことに顕著で極めて大きいものがある。

県　別	氏名	功　　績
兵庫県	北野　耕司 （きたの　こうじ） 姫路合同貨物自動車株式 会社代表取締役会長	１）大気環境の保全に関する思想の普及及び意識の高揚を図ることにより、さわやかですがすがしい大気を保全、創造し、未来にわたって快適な県民生活を確保することを目的として平成４年６月に設立された兵庫県大気環境保全連絡協議会の設立発起人の一人であり、設立後副会長として同協議会の下記の事業をけん引してきた。 ①情報誌「あおぞら」創刊号発行（平成４年９月） 大気環境の保全の動向等について、情報の提供及び相互の情報交換を行う。 ②大気環境保全活動補助金制度創設（平成５年７月） 大気環境保全のために活動している住民団体等に対する活動助成金の交付。 ③兵庫県アイドリング・ストップ運動推進本部設置（平成８年５月） 協議会内に、運動推進本部を設置し、アイドリングストップ国際フォーラムの開催やアイドリングストップキャンペーンの実施、啓発用ティッシュの作成、配布など各種啓発事業。 ④あおぞら大賞（会長賞）表彰制度創設（平成１２年２月） 大気環境保全活動の更なる促進を図るため、他の模範となる活動した個人、団体を表彰。 ⑤大気汚染防止に関する各種フォーラム、シンポジウムの開催。 ２）（社）兵庫県トラック協会会長として大気保全を自らの課題として下記の事業を取り組んでいる。 ①低公害車の導入促進、最新規制適合車への代替、NOx・PM低減装置の助成事業の創設、アイドリングストップを初めとしたエコドライブの徹底、車両の点検整備、法定速度の遵守の推進。 ②環境保全への意識高揚を図るために、ドライバーのマナーアップ、マスメディア・ポスター等による啓発、正しい運転・明るい輸送運動、事業者における省エネルギー活動への取り組み。 ３）平成13年度創設されたディーゼル排ガス中の微粒子を除去する装置（ＤＰＦ）の助成制度を活用し、県内のトラック事業者としては初めて自社（姫路合同貨物自動車株式会社）の貨物自動車に９台に装着するなど、大気環境の改善に積極的に取り組んでいる。 ４）平成15年10月に、兵庫県は全国初となる窒素酸化物と粒子状物質の2物質を規制基準とした大型ディーゼル自動車等の条例による運行規制を実施したが、会員へ規制内容の周知のため、説明会の開催や会報誌等で啓発を行った。 ○平成14年５月：環境保全功労者知事表彰受賞

県　別	氏名	功　　績
和歌山県	後藤　清 （ごとう　きよし） みなべ町ウミガメ研究班代表 日本ウミガメ協議会理事	千里ヶ浜（県立自然公園） ①自然保護思想の普及啓発及び自然公園・動植物の保護 ②自然公園利用指導による事故防止等の活動 ③自然公園内の遭難救助 ④自然公園内の美化清掃等 ⑤自然公園関係職員等 長年の活動により、アカウミガメの保護が図られるとともに、ゴミの散乱がなくなり、浜を訪れる観光客のマナーが向上した。また、アカウミガメの観察会を通して、子どもから大人まで、観察者の自然保護に対する理解の浸透に努めた。あわせて、千里の浜で２０数年にわたり集められたデータは、アカウミガメの生態を知る上で、大変貴重な資料となっている。このような個人の地道な活動は評価に値する。 ○平成15年６月：和歌山環境賞（知事表彰）受賞
島根県	柿田　義文 （かきだ　よしふみ）	平成３年、当時国内でまれな「樹木医」の資格を取得され島根県内各地域で樹勢が悪くなったときや、強風で木が倒れたときなど県民からの緊急的な要望に対し、即刻現場に赴き、指導助言を行うなどバイタリティあふれる行動力で環境保全に貢献している。現在も県民からの要望に気軽に応じ、早朝から深夜まで県内各地に赴き、講演や花木の植栽、管理など実地指導をしている。 ２回にわたり日本樹木医会中国地区協議会会長を歴任され、県内はもとより中国地区に於いて樹木医の育成向上に努められた。 県や団体の審議会などの多くの委員を務め地域振興のために尽くされている。 ○平成１４年　島根県環境保全功労者表彰（島根県知事）

県　別	氏名	功　　績
岡山県	中村　昭夫 （なかむら　あきお） 写真家	社会的なテーマや郷土の自然にレンズを向けた社会派の写真家として活躍しており、単に美しい風景を撮るだけでなく、自然と人の暮らしとの関係といった社会問題を強く意識した写真で高い評価を受けている。 平成６年から８年間にわたり岡山県環境審議会景観部会委員として、本県の景観モデル地区の指定や背景保全地区の指定等に係る審議に従事するなど、本県の環境保全の推進に多大な貢献を果たした。 さらに、倉敷市においては、それまでの伝統的町並み保存への積極的な取り組みから昭和５４年に倉敷市伝統美観審議会委員として、倉敷市の伝統美観保存地区の指定、伝統美観保存計画の策定等に係る審議に従事し、その中で地域住民とも協力して景観保全の推進に尽力している。特に平成１３年からは、倉敷市伝統的建造物群等保存審議会の会長として、倉敷市美観地区景観条例の改正等の取りまとめにリーダーシップを発揮するなど、その功績は多大である。 また、民間団体「倉敷の自然をまもる会」理事や、倉敷市主催の「くらしきの自然」写真コンクールでは設置当初から審査委員長を務めるなど、環境保全の普及啓発に尽力している。 ○平成14年度岡山県知事感謝状（地域環境保全功労者） 昭和43年(1968)　倉敷市文化連盟賞受賞 昭和48年(1973)　岡山県文化激励賞受賞 昭和57年(1982)　日本写真協会年度賞受賞 平成8年(1996)　山陽新聞賞（文化功労）受賞 平成13年(2001)　岡山日日新聞芸術文化功労章受章 平成14年(2002)　地域環境保全功労者知事感謝状 平成17年(2005)　岡山県三木記念賞（文化部門）受賞 平成17年(2005)　倉敷市文化章受章
岡山県	河原　長美 （かわら　おさみ） 岡山大学大学院環境学研究科教授	平成６年から長年にわたり岡山県環境審議会委員として、本県の水質保全を中心とした技術的事項について、専門的立場から審査・助言に尽力しており、本県の第４次、第５次、第６次の水質総量削減計画及び総量規制基準の策定や瀬戸内海の環境の保全に関する岡山県計画の改訂に当たって的確な助言を通して本県の環境保全の推進に多大な貢献を果たしている。特に、平成１６年からは、同環境審議会水質部会の副部会長として、専門事項の審議を取りまとめる立場で尽力している。 また、岡山県公害審査会委員や岡山県環境影響評価技術審査委員会委員を務め、公害防止対策に係る適切な助言、開発等に係る環境保全措置への助言等を行ってきている。 さらに、岡山県児島湖水環境改善対策検討会（以下「検討会」という。）の委員として、児島湖に係る湖沼水質保全計画の評価及び策定に携わるとともに、優れたリーダーシップにより検討会の座長として取りまとめに尽力されるなど、本県の水質環境保全への貢献は多大である。 ○平成15年度岡山県知事表彰（環境保全推進）

県　別	氏名	功　　績
広島県	庄原市立帝釈小学校 （しょうばらしりつたいしゃくしょうがっこう） 代表者　校長　　落岩　範昭	当校は，地域の恵まれた自然環境を活用した自然保護活動を継続的に実施し，子ども達の自然を好きになり自然環境を守ろうという精神を育成するとともに，地域団体との協力や他校との交流活動などを通じて自然保護の輪を広げている。 ＜主な活動内容＞ １　愛鳥活動 昭和30年代から，現在に至るまで40年間愛鳥活動を続けている。早朝探鳥などの野鳥学習を行うとともに，親や地域の協力を得ながら餌掛けや観察などの野鳥保護活動を継続している。これらの活動は，これまで多くの賞を受賞しており，近年では，平成16年度に日本鳥類保護連盟の「野生生物保護功労者表彰」で表彰を受けるなどしている。毎年愛鳥週間ポスター・標語には全児童が応募し入賞者も出ている。また，児童がスケッチした鳥の絵で「愛鳥カレンダー」を毎年作成している。 ２　自然を知り，自然に親しみ，自然と友達になる活動 平成11年から，帝釈の豊かな自然とのかかわりを創出し，科学的に自然を探求する活動として，地形学習，動植物の生態学習や保護活動，天体観測，自然観察図作成などを行っている。 ３　生物保護活動 夏にカワシンジュガイを直接観察して生態を学習するとともに，漁協の協力を得て，片利共生の関係にあるアマゴの放流をするなど，カワシンジュガイの保護活動や，水の涵養・川環境の保全についての体験的学習を通じて，その精神と実行力を培っている。 ４　自然を探求する科学研究活動 児童一人一人が，自然の動植物関係などをテーマに，その特徴や変化を観察して科学論文の作成に取組んでいる。これらを県内の科学賞などに応募し，特に，平成17年度，18年度には，市の科学研究作品展で全作品が特選，広島県科学賞においても全作品が入選（うち17年度特選1，準特選2，学校賞，18年度特選1，準特選2）するなど高い評価を得ている。 ５　フィールドガイド活動 参観日，他校との交流会，「公開研究会」などにおいて，子ども達がチームを組みガイドとなって，保護者，祖父母，他校の児童，研修会参加者を対象に，学んだ知識を生かして自然解説をしながら案内を行っている。自分たちが自然について学んだこと，自然が好きになった気持ち，自然のすばらしさや大切さを，他の人に伝えて自然保護活動の輪を広げている。 　以上のような活動が評価され，平成17年度に「ひろしま環境賞」（県知事表彰）を受賞した。今後も更なる活動の広がりが期待される。

県　別	氏名	功　　績
徳島県	富田生活学校 （とみだせいかつがっこう） 代表者　運営委員長　小川 泰子	平成２年４月の発足以来、廃食油による石けんづくり、牛乳パックのリサイクル活動、割り箸・トレーの回収活動など、ごみの削減、リサイクル活動に継続して取り組むほか、出前講習会を県下一円で行うなど、活動の普及にも取り組んできました。 さらに、ごみの分別収集については、富田生活学校独自に「ごみ収集カレンダー」を作成し地域住民に自主的に配布し、その後の徳島市による収集カレンダー全戸配布につながる先駆けとなりました。 その後も、県が主催する「徳島県グリーン＆グリーンフェア」における、ペットボトル再生組織を活用したファッションショーの実施や、環境紙芝居を作成し、小学校等において実演するなど、行政や学校と連携した環境保全活動にも積極的に取り組んできました。 リサイクル工場等の見学や定期的な研修会等に取り組み、自らの活動に取り入れようと努めるなど、常に県内の環境活動の先頭に立ち、継続的で堅実な環境活動に取り組んでいます。 ①トレー回収 ②ごみ分別回収カレンダーの作成配布 ③ペットボトル再生布を使ったワーキングウェア作成 ④お買い物ごみ家計簿 ⑤生ごみ処理勉強会 ⑥布団のリサイクルによる座布団づくり（老人会等に寄贈） ⑦環境紙芝居「あきこちゃんの夢」作成　　など ○平成14年11月：とくしま環境賞受賞
香川県	香川県立笠田高等学校 （かがわけんりつかさだこうとうがっこう） 代表者　校長　丸谷　幸彦	Ⅰ活動の背景 香川県の西部に位置する有明浜は，瀬戸内海国立公園の一部であり，燧灘に面した幅およそ２Kmの砂浜と干潟が広がる県内屈指の観光名所である。また，西日本有数の海浜植物の宝庫でもあり，ウンランやハマボウフウ，ハマナデシコなど30種以上が確認されている。しかし，近年，松原を整備するために搬入した花崗土や松の根に付いた土から繁殖力の旺盛な帰化植物が繁茂し，既存の海浜植物群落が絶滅の危機に瀕するまでになってきた。このような状況の下，　本校生物工学部は平成11年より，地元観音寺市の環境保護団体や観音寺市教育委員会と連携を図り，海浜植物「ウンラン」の保護と増殖に取り組んでいる。 ウンラン（ゴマノハグサ科）Linaria japonica Miq.は，広く北海道から本州の沿岸に分布する多年草である。現在，瀬戸内海沿岸では有明浜だけに自生し，有明浜の群落は分布の南限として，大変貴重なものである。（昨年愛媛県で数十年ぶりにウンランが見つかったとの報告がある）平成16年には香川県レッドデータブックが完成し、ウンランは最も絶滅が危惧される第Ⅰ種に指定された。また17年4月には「香川県希少植物の保護に関する条例」が施行され，県下を挙げて保護する取り組みが始まっている。 Ⅱこれまでの取り組み (1)本校はこれまで，本種のさし木繁殖に成功し，また平成12年には香川大学農学部の協力を得て，研究開始から1年の期間を費やし，節培養による大量増殖技術を確立した。この方法により増殖させた苗は毎年春と秋に，本校生徒と地元小学生，環境保護団体と一緒に有明浜に定植している。 (2)平成14年度からは，なぜ有明浜だけにウンランが自生しているのかを解明するため，日本海側や北海道のウンランやを採取し，兵庫県立人と自然の博物館で，ＤＮＡ鑑定を行っている。 (3)出前授業や交流学習を通して，小学生に科学の面白さや農業の重要性を伝えた。 (4)ウンランだけでなく，ナミキソウやアツケシソウなど絶滅危惧植物の保護と増殖に取り組んでいる。 (5)平成19年2月，笠田高校と地元の環境保護ボランティア団体が主催となり，「香川自然博物館」を開催。これまでの取り組みをパネル展示し，報告会を行った。250名以上の多くの人の参加を得られた。この活動は今後も継続予定である。 Ⅲ取り組みの推進による効果 高校の教育現場に教材として取り入れたことにより，生徒の地元の環境保全への興味・関心が高まってきた。また，小学生との交流を通して，農業高校で学ぶ者としての自覚と誇りや，自ら進んで研究成果を表現する積極性や自信にもつながった。 さらには小学校・高校・大学・地域が連携して取り組むこの活動は，新聞・テレビにも取り上げられ，大きな反響となっている。今後この活動を一層活発化，継続することで，地域の環境保全の発信地となることを目指している。

県　別	氏名	功　　績
福岡県	中間市婦人会 （なかましふじんかい） 代表者　会長　木下　幸子	昭和５０年代後半から環境浄化を目的に継続して活動している。 まず、ゴミの減量運動として、ＥＭボカシ菌を使って堆肥を作り菜園に利用することから始め、平成１０年以降はＥＭ活性液の利用・普及にも努め、小学校の生活学習でＥＭ団子を児童とともに作り河川に投入する等、小学生も含めた河川浄化運動に発展させている。 昭和６０年から廃油石けん作りに取り組み、市民への配布、環境浄化の広報に努めている。 平成６年からは、不要になった傘を利用してマイバック作りをしている。手間はかかるが、製品は広く市民に配られビニール袋に代わる買物袋として利用されている。 その他、会主催の「遠賀川ふれあいウォーキング」において、参加者に河川の浄化を呼びかけ全行程にわたってゴミや空缶回収運動もしている。 ○平成１８年度環境保全功労者知事表彰受賞

県　別	氏名	功　　績
福岡県	大川市連合婦人会 （おおかわしれんごうふじんかい） 代表者　会長　川原　フミ子	平成７年４月から校区毎に１～２回、公園・河川敷・道路等でアルミ缶回収に努め「大川市知的障害者通所授産施設　木の香園」へ送り、年間８５万円程度の福祉資金援助となっている。併せて、廃油石けんづくりに取り組み校区文化祭、大川市木工まつり等のイベントの折りに普及・ＰＲに務めている。また、小学校で廃油石けんづくりの指導も行っている。 平成１０年４月から「ゴミ０」の活動として各家庭より出る古着等を大川市木工まつりのイベント会場において２日間、リサイクルフリーマーケットを開催し、その益金を、日本赤十字歳末助け合い募金、青少年育成事業の取り組みとして成人式記念樹料として寄付を続けている。 以上のように、環境の浄化・保全に多くの貢献をしているとともに、福祉施設等への資金援助も行っている。 ○平成１７年度環境保全功労者知事表彰受賞

県　別	氏名	功　　績
熊本県	林田　弘治 （はやしだ　ひろじ） 農業	農業の傍ら、里地・里山の豊かな自然を利用した体験学習の実施や、自然学校「山の元（はじめ）自然学校」を設立し、地元の自然環境を生かした自然体験学習を地元の学校を初めとして地域や団体との交流の中で実施している。 【熊本県地球温暖化防止活動推進委員】 ・地球温暖化のシステムと地球環境の現状の理解と水・酸素・資源・食料の有効利性・生存基盤と生活基盤の違いを理解できる環境作り（自然体験学習） 【熊本県ふるさとと水と土指導員】 ・棚田の機能、森林の働き・自然循環の仕組み等ふるさと学習会にて、みんなで考えようふるさと（自然）の水と土、生存環境と生活環境の違いを教える 【ふるさと自然体験学習指導員】 ・小学校５年生総合的な学習の時間の中で命の大切さ、本当に大切なのは何か、ふるさと自然体験学習で健全育成人の痛みの分かる思いやりのある人間が育つことを念願にしてふるさと学習、田圃の学校の中で、自然・生き物について指導。 【地域学習協力員】 ・地域の小学校、総合的な学習の時間の中で自然体験・田圃の学校を実施し、その中で生態系や自然循環の仕組みを学ばせる。田圃の生き物を体験・体感・体得を基本原則に水・食料・資源・酸素の有限性・命の大切さ・助け合い・思いやり等健全育成を根幹に伝えている。 【おおむた環境ネットワーク理事】 ・理事兼里地・里山保全部長として、里地里山保全を実践し近隣地域の環境団体が横の連携を図り情報交換等ネットワークを作り連携活動しながら地球環境破壊の根本原因、ライフスタイルの変革を啓発中。 【山の元（はじめ）自然学校開校】 ・自然散策をはじめ自然の素材（竹）を使ったものつくり、体験・薪火による食事作り、藁打ち・わらない・草鞋作りの体験燻製体験・自然林・棚田の整備と田の草取り体験、棚田の機能と森林の働きを実践学習 【エコロジスト・リーダー（エコ村伝承館）派遣指導員】 ・県環境センター実施のエコロジスト・リーダー養成講座修了者で組織されるエコロジスト・リーダーに登録。県内各地の幼児～中学校を対象に出前事業を実施。主に、里千里山学習を中心として、竹箸作りやわらぞうり作りなどの体験学習を県内各地で実施している ○平成18年：くまもと環境賞（知事表彰）

県　別	氏名	功　績
熊本県	熊本県立芦北高等学校 （くまもとけんりつあしきたこうとうがっこう） 代表者　校長　土田　一好	林業科の実践の一つとして始まったフィリピン森作りボランティア活動は10回の参加となり、参加生徒数は100名を超え、生徒達の大きな心の支えとなっている。この活動が評価され、平成19年度版「現代社会」の教科書で共生社会の教材として掲載されている。魚付林の造成やアマモの増殖は、緑を増やすことで海域環境の改善を図り、熊本県芦北地域沿岸の魚介類の増殖を図る成果につながっている。ウバメガシやアマモの苗の育成は、林業科の生徒達が学習活動として取組み、先輩達が研究した成果を引き継ぎ活かすと共に、課題を解決しながらより効果的な育成方法等についての研究を行っている。近年アマモ場の海域環境における重要性については、全国的に取り上げられているところであるが、種の採取から苗の育成、夜間の干潟への植え付けまで高校生が取り組む数少ない事例である。また、地元高校生の活動により地域住民、特に漁業者の中から、「かつての海を再生したい」という気運が高まり、県や市町等の行政、熊本県立大学、高校の共同研究となった。現在ウバメガシを植林している場所は海岸線だけでなく、水俣宝川内地区の災害現場にも広がっている。これらの定期的な草刈り等の環境整備を進めると共に、生育調査を行い、さらには地元漁業協同組合と協力して植栽したスーパーマツの生育状況調査も行っている。これらの活動を中心とした様々な環境保全に関する活動が認められて、平成１８年度くまもと環境賞を受賞した。 ○平成18年：くまもと環境賞受賞

県　別	氏名	功　　績
大分県	菊屋　奈良義 （きくや　ならよし） 株式会社大分イカリテクノス代表取締役 社団法人大分野生生物研究センター理事長	多年にわたり、大分県下の野生生物とその生息環境に関する調査研究を行っており、会社経営のかたわら、県や市等に環境保全に配慮した各種事業の実施について働きかけ、その実現に奔走するなど自然環境保護に多大な貢献をしている。 また、環境保全に関する講習会や自然観察会を開催し、自然保護・環境保全意識の普及啓発にも寄与している。 【キムラグモの個体保護に関する研究】 昭和２２年からキムラグモに関する個体群保護について研究。大分市上野公園内の個体群保護への尽力、学会での報告大学での講演などを多数行うほか、昭和４５年には、世界自然保護基金のプロジェクト４４号に指定を受けた研究を行った。また、大分県版レッドデータブック《普及版》（平成１３年３月）の刊行にあたっては、大分県野生生物保護対策検討委員会委員として中心的な役割を果たし、その完成に大きく貢献した。 【環境保護の実践活動】 平成３年から平成６年にかけて、久住高原一帯の国立公園域の賢明な自然利用という立場からリゾート計画づくりに参画し、観光利用による自然草地の損傷防止等に尽力したほか大分市松岡丘陵地域のサッカー場建設に際し、森林保全、灌漑用水池保全方策などを提案、指導するなど、県や市等の事業へのアドバイスを行い、環境保護に努めた。 【自然保護・環境保全意識の普及啓発】 昭和４７年に財団法人日本自然保護協会が認定する「自然観察指導員」九州地域第１号となる。昭和４８年には、大分市内で全国に先駆けたお母さんの自然観察グループ「森と遊ぶ会」を結成。現在も活動を続けている。平成１４年、居住地の大分市八幡小学校の児童に呼びかけて「八幡自然探検隊（通称；祓川探検隊）」を結成。４５家族１３０人の隊員で毎月第３土曜日に、郷土八幡の自然を学ぶ会を開催している。 ○平成18年４月：ごみゼロおおいた作戦功労者顕彰（知事感謝状）

県　別	氏名	功　　績
沖縄県	西表ヤマネコクラブ （イリオモテ　ヤマネコ　クラブ） 代表者　　池村　久美	「西表ヤマネコクラブ」は、日本最南端の秘境、東洋のガラパゴスと称される西表島の大自然をホームグラウンドに、自然の大切さを学びながら子どもの視点に立ち、こどもペースで楽しく活動しているクラブです。西表島には、クラブの名称にもなっています、イリオモテヤマネコやカンムリワシなど希少な野生動植物が多く生息し、周辺海域のサンゴ礁など多くの自然環境が残っています。クラブは、1997年(H8)の4月に西表島西部地区にあります上原小学校・船浦中学校の児童生徒で構成し「西表のことをもっと知りたい、調べたい、きれいにしたい」をテーマに掲げ結成。県内においても２番目に長い活動経歴を持ち、今年で11年目を迎えました。 主な活動内容としまして、自然観察（イリオモテボタル、サンゴ、干潟、イリオモテヤマネコ、ウゴミ拾いと分別（海岸漂着ゴミ、道路、港湾）、ものづくミショウブ等）水環境の調査、キャンプ（西表島内、波照間島、鳩間島）、り（草木染め、自然の材料でリース、リサイクルぬいぐみ、牛乳パックやケナフで紙つくり等）、野菜の栽培（ゴーヤ、ヘチマ）、料理（食材の流れを学びながら）、エコライフ実行等、常に環境問題を意識しながらこども達の自発的な計画や行動を大切にした環境保全、美化活動に積極的に取り組んでいます。 特にイリオモテボタルは、毎年観察することで環境の変化等を感じることができています。また、活動の成果を壁新聞にまとめ、学校や地域へ紹介することにより、環境保全、美化に対する意識の啓発・啓蒙に取り組んでいます。これからも地域の自然環境を視点に、町内のみならず子どもなりに大きく視野を広げて活動展開していきます ○平成18年：沖縄県環境保全功労者受賞
横浜市	いかだで遊ぼう谷本川実行委員会 （いかだであそぼうやもとがわ じっこういいんかい） 代表者　　渡利　博	水辺の環境保全のため、地域のネットワーク化や環境教育を進めること、また、親子や近隣住民が世代を越えて参加できる、鶴見川流域の自然の豊かさが体感できるイベントや環境活動を行っています。 ・子どもと川を繋ぐ地域活動としてスタートしたものが、第７回から市民活動団体の実行委員会による開催となり１７回を実施した。 ・構成団体の環境学習活動（月例水質調査・生き物調べ）やクリーンアップ作戦などに参加者が増加した。 ・総合学習に取り入れられ、児童の環境保全等への関心が高まった。 ・地域市民活動ネットワークの核となり、街づくりに貢献。 ○平成18年度横浜市環境保全活動賞受賞

県　別	氏名	功　　績
名古屋市	社団法人　名古屋民間保育園連盟 （　しゃだんほうじん　なごや みんかんほいくえんれんめい　） 代表者　会長　藤岡省吾	昭和29年の設立当時より、団体加盟園とともに保育の中で環境教育に取り組んできている。各園での環境教育の取り組みをリードしてきた。加盟園で園児が園庭や公園などの限られたスペースで自然に親しむ中で、命の大切さや感性を育む心の育成を支援してきた。その中には、近年クローズアップされている「もったいない」の心などがある。その下地があるからこそ、平成１５　年度より始まった「環境にやさしい園つくり『なごやエコキッズ』」の趣旨にも賛同し、モデル園の参加にも協力してきた。連盟の協力により、名古屋市内のすべての民間保育園が「なごやエコキッズ」に参加することになった。エコソングCDを全園に配布し、運動会や毎日の体操などで活用するよう奨励、親子で楽しみながら、エコライフを実践するよう普及に努めている。現在も、連盟の理事会や各区の支部会にて地域の環境教育につながる行事を企画したり、参加するなど地域においても貢献している。
名古屋市	社団法人名古屋市私立幼稚園協会 （しゃだんほうじんなごやし わたくしりつようちえんきょうかい） 代表者　会長　秦　智宏	昭和２６年の設立当時より、団体加盟園とともに保育の中で環境教育に取り組んできている。各園での環境教育の取り組みをリードしてきた。近年では、平成４年より、地球環境問題研究会を立ち上げて、協会として一早く環境保全に取り組んできた。具体的には、「地球とこんにちは！」の機関紙を発行したり、各園での資源回収の取り組みの推奨を行なったりしている。その下地があるからこそ、平成１５年度より始まった「環境にやさしい園つくり『なごやエコキッズ」に賛同し、モデル園の参加にも協力してきた。協会の協力により、名古屋市内のすべての私立幼稚園が「なごやエコキッズ」に参加することになった。平成17年度に、政令指定都市の私立幼稚園団体の大会が名古屋市で開催され、テーマを「愛・夢・命～かけがえのない子どもたちと地球のために～」として、全国に、幼児期における環境教育の重要性を情報発信した。これにより、政令指定都市の関係者に、幼児期にも環境教育はできる、すべきだという理解の輪が広がった。ロスサンゼルス幼稚園協会と姉妹提携をしており、平成１８年度には、ロスサンゼルス幼稚園協会が名古屋市を視察した際、各園の環境教育の取り組みを紹介、エコソングを伝えるなど国際的にもエコ活動を広めている。
京都市	北川　明 （きたがわ　あきら） 前京都市会議員	平成７年頃から，門掃き運動を提案され毎月第２，４日曜日に学区内の清掃活動をされ，現在に引続き活動が行われている。　町の美化にとどまらず，安心安全のまちづくりと地域環境保全に対する意識を地域に植付けられた。 最初に提案され自ら積極的に活動されたことは，地域環境保全に貢献度が大きい。 ○平成18年度京都府環境保全功労者表彰受賞

県　別	氏名	功　　績
大阪市	中野　道雄 （なかの　みちお）	昭和59年12月から平成18年7月までの長きにわたり、大阪市公害対策審議会委員及び大阪市環境審議会委員、大気環境部会長、会長代行などの要職を歴任し、「大阪市環境基本条例」、「大阪市環境影響評価条例」、「大阪市環境基本計画」など多くの本市環境施策の制定に携わった。 また、昭和59年4月から平成18年7月までの長きにわたり大阪市環境影響評価専門委員会委員として、技術指針の整備や環境影響評価制度の運営に精力的に取り組まれた。この間、数多くの案件の環境影響評価審査に携わり、特に大気質についての卓抜な見識と豊富な経験を発揮し、委員会の場において適確な審議を行うとともに、平成14年8月から16年7月の2年間については、会長職を務め、案件審査にあたり適切な審議・進行に尽力するなど、本市環境影響評価制度の円滑な推進に寄与し、もって、本市環境行政の充実・発展に多大に貢献した。 ○大阪市長感謝状
大阪市	山本　研二郎 （やまもと　けんじろう）	平成8年8月から平成18年7月までの長きにわたり、大阪市環境審議会会長として、「第Ⅱ期大阪市環境基本計画」「自動車交通環境計画」、「ヒートアイランド対策推進計画」など多くの本市計画の策定に携わり、専門的知見に基づく貴重なご意見を述べるとともに、会長として審議会の意見をまとめるなど、本市の環境行政に多大な貢献をされた。 また、平成16年6月の市民・環境NPO・行政が協力して地球温暖化対策に取り組む「なにわエコ会議」の設立にあたっては、会長に就任され、地球温暖化防止パートナーシップフェアを開催するなど、本市の市民等と協働した環境活動においても大きな役割を果たしている。 ○大阪市長感謝状
堺市	泉北野鳥の会 （せんぼくやちょうのかい） 代表者　会長　炭田仙二	昭和56年9月に会を結成して以来、「野鳥の観察を通して自然に親しみ、人々とのふれ合いを深め、野鳥保護と自然環境保全の心を養う」ことを目的に、長年、活発に活動を続けている。活動内容は、月平均2回の探鳥会の開催、年1回の野鳥展の開催、年4回の機関紙の発行、バードカービング教室、各種団体に対する探鳥会・野外活動の案内・協力など多岐にわたっている。 また、本市主催の環境啓発行事に10年以上にわたり参加協力するとともに、地域の生物調査へも積極参加している。 さらに、地域において環境保全活動をしている市民・団体によるネットワーク設立に向けた取り組みに指導的参画をするなど、地域における環境保全活動に貢献している。 ○平成12年６月「おおさか環境賞　奨励賞」受賞

県　別	氏名	功　　績
神戸市	廣川　美子 (ひろかわ　よしこ) 名古屋市立大学名誉教授	多年にわたり、神戸市の環境影響評価制度における第三者機関である、神戸市環境影響評価専門委員会及び神戸市環境影響評価審査会の委員として主として建築環境工学・環境心理学の分野を中心として、厳正な調査審議に尽力をされている。 また、環境問題に関する深い理解と幅広い学識をもとに、本市の環境行政に対して有益かつ、先見的な助言をいただいている。
神戸市	櫨谷川愛護協議会 (はせたにがわあいごきょうぎかい) 代表者　会長　雪永　一郎	当会は「櫨谷川をコスモスとホタルの里にしよう」を合言葉に、櫨谷川の浄化と流域の環境美化を目的に平成５年に発足しました。以来、堤防と河川敷の草刈・清掃活動を住民によるボランティア活動により年に４～５回行っています。 また、櫨谷川の浄化と近郊農村住民とニュータウン住民との相互交流を目的に、関係諸団体と協力して毎年夏の終わりに「櫨谷川まつり」（川まつり―１３回実施）を開催しています。このまつりでは、櫨谷川堤防・河川敷の草刈やごみ拾い、また開催場所までのクリーンウォーク(美化活動)や、川の生き物を採取・展示して地域住民や子どもたちに櫨谷川に棲む生き物の生態系を学んでもらう水辺教室のほかに、イモ掘り、コスモスやヒマワリの植栽、野菜即売会、竹細工教室明石市の水道水のＰＲ、魚の放流とつかみどり等を行っています。 これらの活動を通じて、河川愛護活動や地域の環境美化活動が着実に広がるとともに、地域住民相互の交流も深まっており、「自分たちの町は自分たちで守り育てていこう」という地域住民の意識の高揚に大きく貢献し、他団体の模範となっています。 ○平成10年：環境庁水環境部長表彰 ○平成12年：神戸市環境功労賞

県　別	氏名	功　　績
広島市	広島環境サポーターネットワーク （ひろしまかんきょうさぽーたー ねっとわーく） 代表者　中村　弘治	平成７年に広島市環境サポーター養成講座を修了した市民（第一期生）のうち、環境ボランティアとして活動を希望する有志で設立。 行政などが実施する数多くの環境保全事業に参画し、リサイクル工作や環境劇の公演など市民にわかりやすい手法で普及啓発活動に努めるとともに、市が実施する広島地球ウォッチングクラブ環境学習会等のイベントに講師やスタッフを派遣するなど、本市の事業実施にも大きく貢献している。 また、小学生を対象とした水生生物の調査や水質判定を行う水辺教室や干潟調査を、小学校や公民館などで実施するなど、子供たちへの体験型環境学習を行うことに尽力している。 一方、河川部会、海洋部会、森林部会、生活部会、国際交流部会を組織し、それぞれの部会等で独自の調査、啓発活動等も実施している。さらに、自主的な河川調査や汽水域調査などによりデータの蓄積を行い、研究機関などへ積極的に情報発信も行っている。 平成１８年には、大木浩元環境大臣を招いて活動１０周年記念事業を主催するなど、広島市民をはじめ県内での多くの住民への幅広い普及啓発活動の功績に対し、ひろしま環境賞広島市長表彰を受賞している。 ○平成１８年　６月　ひろしま環境賞（県知事表彰）受賞 ○平成１８年１２月　広島市民表彰受賞
関東事務所	村上　利子 （むらかみ　としこ） 環境カウンセラー千葉県協議会・顧問	受賞歴：平成１４年千葉県環境賞（千葉県知事）を受賞 主要功績：千葉県において下記の要職を歴任した。 昭和６１年から平成６年７月まで　千葉県公害対策審議会委員 平成６年８月から平成８年７月まで　千葉県環境審議会委員 平成８年８月から平成１４年７月まで　千葉県環境審議会副会長 １，千葉県において、昭和６１年から公害対策審議会委員に就任して以来、環境審議会の副会長を務め、消費生活の立場から調査審議を行い、千葉県の環境行政の推進と県民福祉の向上に大いに貢献された。 ２，消費生活相談員（国民生活センター）暮らしの相談コーナー代表。 ３，省エネ指導員（省エネセンター）として省エネナビ２００Ｖ用を小中学校に１０台設置、市民住宅に１００台設置して、省エネ普及活動に努力した。

県　別	氏名	功　　績
関東事務所	猪俣　勝一 （いのまた　しょういち） 財団法人新潟環境分析センター　理事長 ＮＰＯ法人新潟県環境カウンセラー協会　理事長	昭和42年～昭和50年：東洋瓦斯化学工業（株）研究開発室にて自社の公害防止技術の研究を行う。昭和46年、県より地場産業の公害防止設備開発の依頼を受け、同設備の製造販売を行う。 昭和55年～昭和56年：県環境部の依頼により県保健所の立入により抵触処分を受けた事業所を対象に設備改善等の技術指導を行い、県内事業所の抵触率低減に協力する。 昭和56年～昭和60年：燕市商工会議より同市の特定施設の公害防止設備を全て回り、事前に違反を起こす可能性がある個所を指摘し、その改善を指導し、同市の事業所の公害防止に協力した。 昭和54年～昭和62年：新潟商工会議より公害防止専門相談員（旧通産省の制度）の依頼を受け公害防止に関する相談を受ける。 平成9年～平成15年：新潟県環境保全連合会の会員を対象に環境活動評価プログラムの指導助言及びその普及に努め現在に至る。 平成10年～現在：新潟県環境カウンセラー協会を設立し、理事長に就任。会員を対象に環境活動評価プログラムやＥＡ２１の勉強会を開催し、指導助言者や審査人の養成に努め現在に至る。 平成15年：ＥＡ２１のパイロット事業に審査人として参加し事業所に対して指導助言及び審査を行う。 平成16年：財団法人にいがた産業創造機構（新潟県知事　理事長）の依頼を受け、新潟県環境カウンセラー協会として県内４会場、約４００名を対象にＥＡ２１実践セミナーを開催した。
関東事務所	大喜多　敏一 （おおきた　としいち） 桜美林大学名誉教授	茨城県環境カウンセラー協会会長として、広い分野の協会員の活動を束ねると共に、その後設立された環境カウンセラー全国連合会の茨城県環境カウンセラー協会の代表としてその作業に参入し、関東ブロック会長等で活躍した。 茨城県環境カウンセラー協会の事業として、（１）環境教育連続講座：これは土浦市、水戸市、勝田（ひたちなか市）等で毎年１～２ヶ月毎に開催し、１回の出席者は２０～８０名である。これは現在も継続中である。（２）環境出前講座：これは茨城県、市、町村に出向き、その大きなものは茨城県の小学校夏休み省エネコンテストで２年間に３３校で行った。又、土浦市職員１０００人を対象としたＩＳＯ認証コンサルその他、地元小中学校での教育で、本人個人１０校以上である。（３）「環境とカウンセラー」誌の発行：これは各地の図書館に配布される。（４）ＩＥＣ－Ｎｅｗｓニュースレターの発行（５）環境マネジメント部会の活動：茨城県内の企業の環境教育を行っている。 ○平成元年：大気保全功労賞（環境庁大気保全局長表彰）